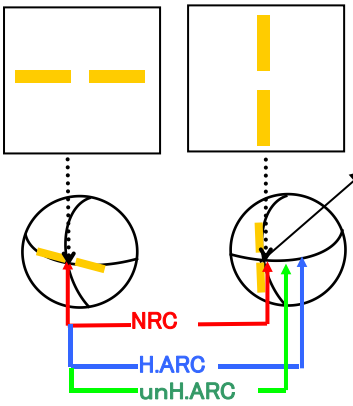
網膜対応検査−⑦陰性残像；Ngative after image test
⑧陽性残像；Positive after image test

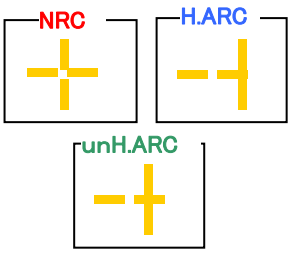
目的　両眼視の把握と網膜対応の把握

準備物 残像検査用具・固視標付直像鏡（偏心固視の場合）　**分離方法** 片眼ずつの照射（横と縦の残像）　**検査方法** F対F

例）右眼外斜視



被検者の見え方



被検者は両眼中心固視か？

NO → 偏位眼を散瞳する → 比較暗室にて偏位眼を遮閉して健眼に横の光を照射する → 次に健眼を遮閉して偏位眼の眼底をのぞきながら中心窩に固視標付直像鏡で縦の光等を照射する

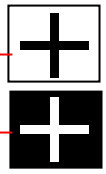
YES → 比較暗室にて偏位眼を遮閉し健眼に約 10 秒間横の光を照射する → 次に健眼を遮閉して偏位眼に約 7〜8秒間縦の光を照射する

棒電灯の中心から決して視線を動かさないようにさせる。大型弱視鏡でも可能。参考）視能矯正マニュアル P152 では＋と斜視眼に×を照射。

縦の光は抑制されにくいので、非固視眼に後で照射するのが適している。最初の残像が消えると困るので少し短めに！参考）視能矯正マニュアルでは×を照射

明室での開瞼時の残像はどう見えるか？陰性残像

閉瞼時又は暗室での開瞼時での残像はどう見えるか？陽性残像



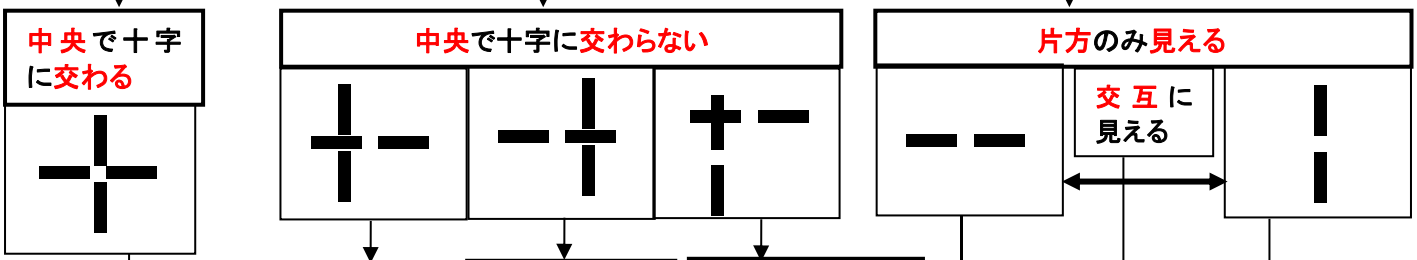
光が黒く見える。

光が白く見える。

異常角（OA と SA の差）を測定する場合、マドックス正切尺を利用する。非固視眼の道づれ領に故意に image を与え、道づれ領が積極的に両眼視に参加しているかを調べて見てもよい。要するにＦ対Ｐの検査となるね。通常は中心窩に残像を作った方が残り易いが・・・

＊右眼に ┃ 左眼に ━ ━ の残像の場合

- 中央で十字に交わる
- 中央で十字に交わらない
- 片方のみ見える



交互に見える

- 内斜視で交叉にずれる
- 外斜視で同側にずれる
- 水平・上下斜視で斜めにずれる

上下も水平斜視と同様 NRC と逆にずれる。

例）右眼外斜視だった！

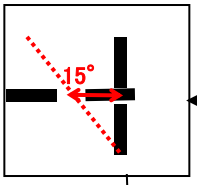
異常対応

この段階では un.HARC か HARC かは判らない。

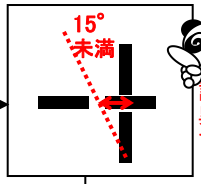
例）顕性偏位は＋15°だった！

顕性偏位と残像のずれは一致するか？

YES



NO



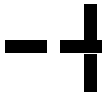
詳しくは異常角である。

残像が不完全だった場合もある。

- 正常対応（正位・斜位あらゆる斜視）
- 調和性異常対応（斜視）
- 不(非)調和性異常対応（斜視）
- 交代抑制又は対応欠如
- 消えている残像の眼の抑制又は対応欠如

結果・記載例）

残像検査　右眼―縦　左眼―横の残像



調和性異常対応右眼外斜視（R−XT30⊿　H. ARC）

自分の結果を書いておこう！

補足

大型弱視鏡にも残像用スライドがあり、光量をあげて行うことが出来る。